

「データベースとWeb技術 - Database & Web」

2016年7月21日

阿児雄之（博物館・特任講師）

「データベースとWeb技術」といっても、それが指し示すものは日々多義的なものとなっている。しかし、このような状況でこそ、根幹的な要素を明確に捉えることもできるかもしれない。情報学に留まらないデータベースの存在を意識しつつ、Webの登場によってデータベースがどのように変容したかを考える。また、阪神淡路大震災と東日本大震災という2つの大きな震災においてデータベースとWeb技術がどのように関わったかを知り、将来的な方向性を検討する。

1. データベースとは

□データの集合体？

“A **database** is a collection of data that is stored in a computer and that can easily be used and added to.” (COBUILD English Dictionary 3rd edition)

“データを、ある一定のルールで蓄積したもの。データを蓄積するための枠組みと検索の仕組みを提供するソフトをデータベースソフトまたはデータベース管理システムと呼ぶ”（日経パソコン用語事典）

Identifier（識別子）の存在

2. Webの登場による変容

□Webの登場 -開かれたデータベースへ

ネットワーク化されたデータの集合体であり、自立的な構築管理と検索の仕組みを有する。＝データベース？

URIをkeyとするLinked Dataの集合体へ。

URI（Uniform Resource Identifier 統一資源識別子）の存在

3. ふたつの大災害

□阪神淡路大震災

1995年1月17日発生。近畿を中心に大きな被害を受け、その中でも特に神戸市市街地では火災を伴った壊滅的な被害が発生した。

- ・ 震災文庫（神戸大学附属図書館） <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/>
- ・ 人と防災未来センター <http://www.dri.ne.jp>

□東日本大震災

2011年3月11日発生。震度7のゆれ、波高10mをゆうに超える津波により、東北から関東にかけての沿岸部地域に甚大な被害。

- ・ 国立国会図書館東日本アーカイブ ひなぎく <http://kn.ndl.go.jp>
 - 検索対象データベース一覧 <http://kn.ndl.go.jp/static/db>
- ・ saveMLAK <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- ・ 渡邊英徳研究室（首都大学東京） <http://labo.wtnv.jp>